



国際放射線防護委員会 ICRP1997年

オックスフォード会議

松平 寛 通*

はじめに

2年に1度の国際放射線防護委員会ICRPの主委員会MCと各専門委員会Ctteeの合同会議がオックスフォードで開催され出席した。9月6日(土)の昼成田を飛び立ち、同じ日の午後4時過ぎロンドンに到着、幸い英国放射線防護庁NRPBの人が車で出迎えてくれたので何事もなくオックスフォードに入り、名前の通り古めかしい2階屋の牧師館の跡と思われるOld Parsonageホテルに落ち着くことが出来た。当日は御存知の通りダイアナ妃のお葬式が行われたので、ロンドン市内に入っていたら身動きが取れなかった筈である。

ついてながら、英国はイギリスの薔薇ダイアナ妃一色で、各種新聞やテレビの特集報道は勿論、オックスフォードの街角にも“Diana I love you”というサイン入りの熊の縫いぐるみ—teddy bear—を添えた花束が所々に積まれていた。ロンドンでは、この縫いぐるみを記念に持ち帰ろうとした若者や中年の外国人ツーリストが警察に捕まり、裁判沙汰になったり、怒った市民から殴られたという記事が新聞をにぎわしていた。ただ、2、3の人の話からは、ダイアナ妃に対するイギリス人の見方は複雑の様だ。

一方、会期中St. Giles教会のお祭りがあり、ホテルの近くは大勢の人出で賑わっていた。

日本からの出席者は松平(MC)の他、馬淵(Cttee 1)、佐々木(Cttee 3)、中村(Cttee 3)、小佐古(Cttee 4)各氏の5人で、稲葉氏(Cttee 2)は都合が悪く欠席した(但し、本会議後のアビニオンのCttee 2 関連会議には参加)。今回から中村氏(阪

大)がIVRの専門家としての業績を買われ新しく委員となったので、日本からのICRP委員は全部で6人である。後で述べるが、Cttee 3の委員長Fred Mettlerの采配もあり、ICRPにも当然とは言え医学的色彩がかなり濃くなった。

1. 総 会

総会と各Cttee会議は、Kebleカレッジ内のコンピュータ研究所で行われた。前にケンブリッジ大学へ行った時にも経験したが、建物への出入りは厳重で、一端外へでるとVIPゲートのカードを持っている人が来ない限り会議室へ入れなくなる。

出席者は、MCと各Cttee委員の他CEC, EU, IAEA, WHO, OECD-NEAの代表をあわせて約90名であった。

9月7日(土)の朝9時からのコーヒータイムの後、10時から第1回目の総会が始められた。委員長R. Clarkeが歓迎の挨拶と共にICRPの簡単な歴史と活動について述べた。財政面のこともあってタスクグループ(予算措置あり)とワーキングパーティー(予算措置なし)の違いを強調した。来年1998年はICRPが国際放射線会議の下部組織として誕生してから70周年を迎える。

次いで、科学秘書J. Valentinの事務報告や会議の日程についての説明があり、Cttee 1-4の各委員長が各Ctteeの活動状況と方針を述べた。

なお、全委員会に配布した“ICRPの歴史と方針”について各Cttee毎に意見を聴取し、まとめることとした。

1.1 各Ctteeの活動状況

Cttee 1(委員長R. Cox, NRPB)は、従来から放射線防護と関連のある放射線の生物学的効果

* Matsudaira, Hiromichi / 科学技術振興事業団